



いよいよ変わりゆくハッピーロード大山商店街の今 便利さと親しみやすさの両立を目指すことは可能!?



このような昭和の香りのする商店街が生き残る術はもうないのだろうか!?

今回も本欄・定点観測シリーズの一つの「その後」のご紹介。

東武東上線・大山駅（東京都板橋区）周辺、都内でも有数の規模（長さ約560m、店舗数約200）と人出で知られる「ハッピーロード大山商店街」で進められている《大山町クロスポイント周辺地区第一種市街地再開発》の途中経過の様子をお伝えする。

ハッピーロードには以前から、商店街の中央部付近に都市計画道路補助第26号（中野通り）を通す計画が東京都によって進められようとしており、その対応に苦慮してきた歴史がある。ハッピーロードがアーケードを構築しているのも、実はその「阻止対策」の一つだったとされる。

しかし、昨年からはいよいよ着工。A・B・C・Dの4街区での建設工事（A街区とD街区は26F建てマンション、B街区は8F建てマンション、C街区は3F建て商業ビル）が昨年からスタートした。写真はそのうちのA街区・D街区

のマンション建設現場を、商店街の中から撮影したものだ。そしてこのA街区・D街区の間を、都道・中野線も通ることにもなる。

A街区・D街区とは、商店街を挟んだ反対側でも、すでにB街区・C街区のための工事が進められており、どちらかという写真のA街区・D街区のほうが、投入されている重機の数や規模からいっても進んでいるように見える。

並行して2030年までには、東武東上線・大山駅の高架化および周辺部の整備連続立体交差化（約1.6キロメートル、その間には8か所の開かずの踏切がある）が進められ、駅前広場の整備なども行われるという計画もある。

この工事が完成すれば、今の様子からは想像もつかないが、アーケード商店街としてのハッピーロードは大きく変貌する。なにしろ幅員20〜23mの都道が商店街を分断するのだ。今後その推移を取材していきたい。（未知草）